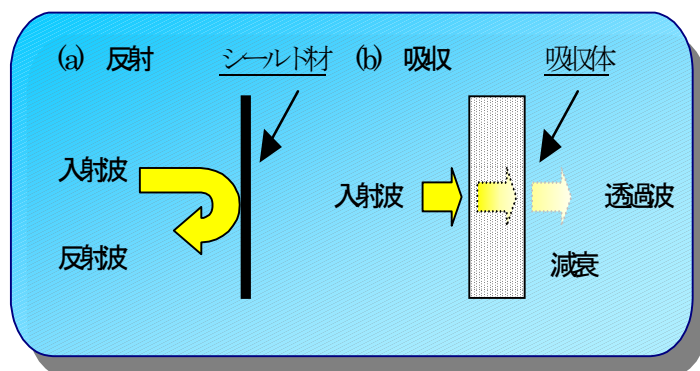


電磁波遮蔽新素材の開発

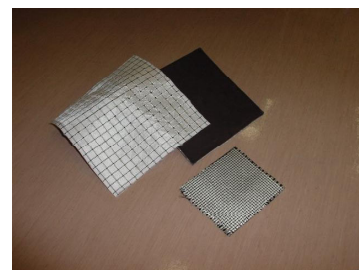
携帯電話に代表される移動通信システムの普及に伴い、電磁環境の悪化が懸念されている。地場産業である織物技術を用いた電磁波遮蔽材の研究を行い、オフィスルームなどにおける不要電磁波対策のための新素材開発を行った。本研究は、文部科学省の地域先端研究「地域産業の発展に寄与する電磁波技術に関する研究」として、平成11年度から13年度にかけて金沢大学工学部長野勇教授を地域中核オーガナイザーとして行われた。

成 果

40デシベル(dB)のシールド性能を有する炭素繊維物および導電性ラミネートクロス
の電磁波シールド材料を
(株)一ノ宮織物と小松精練
(株)とともに開発した。これらの素材をシールドオフィス用モデルルームの壁および天井材として提供した。また、炭素繊維とビニロン繊維による交織織物をフェライト樹脂のシート材とのラミネート加工で積層させた電磁波吸収体を開発した。



電磁波シールド
炭素繊維織物



積層型電磁波吸収体



電磁波シールドモデルオフィスルーム
工事中のシールド材料の施工様子



完成したシールドオフィス
用モデルルーム概況